

平成16年度新庁舎における市民利用施設検討委員会

第5回ワークショップの記録

平成17年1月29日（土曜日）

第5回のワークショップ（以下、WSとする）の前に行われた委員会の席に、平成16年10月23日に実施された新庁舎の基本設計者選定に関する公募型プロポーザルにおいて、最優秀者として選定された(株)山下設計・(株)田畑建築設計事務所 設計共同体の方々が出席され、ご挨拶をいただきました。



委員会の後、WSでは3月に迎える最終第6回市民利用施設検討委員会で市に提出する「最終提言書」の基礎を完成させることを目標として、市民利用施設と市民広場に関する検討結果をまとめる作業を行いました。

グループワークでは、第4回までのWSの成果「曼陀羅（まんだら）集約図」からキーワードを整理して大きな一枚の模造紙に集合させ、提言書の「顔」をつくりあげました。

平成16年度第5回ワークショップのテーマ

「利用施設と市民広場にどのように関わっていきますか」
～提言書の基礎を固めましょう～

グループワーク

1 これまでの取りまとめの成果から、市民利用施設（庁舎内）と市民広場（庁舎外）について、「利用のしかた」「基本的条件」「管理運営の方法」を整理した。

提言とする内容の骨格（様式）は、【前文】と【説明文】としたフォーマットを用い、下記のとおり網掛けの部分に入るキーワードを1～3の各班で議論した。

【前文】※新庁舎における市民利用施設と市民広場の位置付け

私たちが描く「新庁舎における市民利用施設と市民広場」

ここは福島市民の「」の場です。

新庁舎における市民利用施設と市民広場の利用のしかたに関しては、「新庁舎における市民利用施設検討委員会」から以下のとおり提言をします。

【整理表】

	利用のしかた(あるべき機能)	基本的条件(配慮すべき点)	管理運営(市民と行政の関わり)
市民利用施設	A	B	C



WSもいよいよ大詰め。みなさん慎重にそして大切なことはしっかり発言していました。

- (2) 利用のしかたを考えて、市民利用施設に必要なハード的な部分の条件を整理した。
市民利用施設に関しては、曼荼羅(まんだら)集約図から考えた必要な機能(利用のしかた)に合わせて、下表【整理表】のBの部分に入る施設の骨格となる基本的条件を議論した。
- (3) 施設全体の管理運営(ソフト的な部分)に市民はどのように関わっていくべきかを前出の表【整理表】のCの部分に、第4回WSで議論された下表左の意見、議論の中で委員から出されたメモを参考にポイントを整理し、市民広場との連携を含めて考えた。

<p>管理運営・市民参加の形</p> <p>I NPO(運営委員会の主体)を立ち上げる</p> <p>II 管理⇒市、運営⇒市民</p> <p>II 市民団体に所属していなくても参加できる</p> <p>II 来庁者を巻き込む</p> <p>III 事務局の設置</p> <p>III 運営委員会が全体を管理する(給与はボランティア程度支払う)</p> <p>III (展示等は)ボランティアが自分達で運営</p> <p>III 独立採算を目指す業者の参加(カフェ等の運営)</p> <p>III 専属スタッフ(市民・市職員)が常に施設内容や利用状況を確認する</p>	<p style="text-align: center;">議論のメモ</p> <p>市民活動・NPOのための①⑥⑨が休憩スペースにも相談室にもなる(行政と市民団体の連携)</p> <p>条件を満たした任意団体(市民団体)が借用できる(期限付き)無料ルーム</p> <p>NPOが使えるスペースで備品も設置されている</p> <p>共通の目的を持った市民(NGO)が市(行政)と一緒に利用</p> <p>無料のインターネット</p>
<p>行政との連携</p> <p>I 行政よりの補助、活動のサポートを受ける</p> <p>II コピー機・印刷機などの設備(貸与)</p> <p>II (行政が)市民活動をサポートする</p> <p>II 空き施設の情報検索</p> <p>III 情報の管理や警備を市役所との連携で行う</p> <p>III (行政に)運営委員会へ参加してもらう</p>	<p>市政に参加しているという自覚と信頼感を作り上げるコア</p> <p>行政窓口に行かなくても手続きができるようになってくる時代において「市役所」は市民参加・協働が実現できるスペースであるべき。(コアの理由)</p> <p>市の情報と民間の情報を同じ場所で扱うことの可否を議論</p> <p>市民参加・協働のスペースは市民の声が届く場所</p>

※ I : 第1班 II : 第2班 III : 第3班 の意見

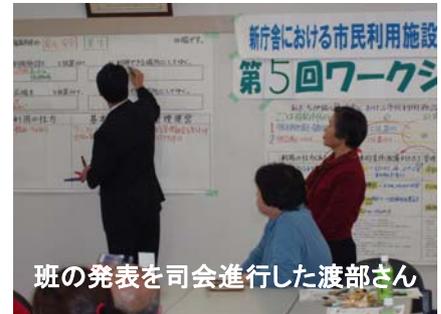
◎市民広場に関しては、16年度第2回ワークショップまででほぼ議論は完了していることから、今回は重み付けに関してグループの意見を確認した。 ⇒ 【前文】【説明文】へ反映

2 成果の発表



班の全体的なコンセプトを説明する吉田さん

議論がどのようにまとまったのか、班の考え方の特徴を出しながら発表を行いました。



班の発表を司会進行した渡部さん

各班から出された提言書【前文】【説明文】のキーワードは下記のとおりです。

【前文】

第1班：ここは福島市民の「共生」の場です。

第2班：ここは福島市民の『安全・安心』の場です。

第3班：ここは福島市民の『生活文化発信』の場です。

【説明文】

1 市民利用施設を福島市民の

『「自由な空間」「ホットな協働の場」「情報発信基地」』と位置付け、
『「多機能多目的」「情報発信・市民参画」「情報開示・検索・集積」』に利用できる場所にしてゆく。

2 市民広場を福島市民の

『「やすらぎ」「交流の場」「憩いの場」』と位置付け、
『「ふれあいの場」「いやしの場」「遊び場・イベント・避難場所」』に利用できる場所にしてゆく。

市民利用施設に関する

◎具体的に発表提案された「利用のしかた（あるべき機能）」のポイント

・多機能多目的な **市民と行政の接点**

↓
・協働、情報の共有、専用**窓口**
・情報が集約され、共有される

↓
人（行政）と人（市民）とのコミュニケーション ITでは不可能

◎具体的に提案された「基本的条件（配慮すべき点）」ポイント

- ・ワンフロア・ガラス張り（仕切り）
- ・色別の案内など安全安心に配慮
- ・利用しやすい会議室が隣接
- ・誰が来ても安全・安心が基本

◎具体的に提案された「基本的条件（配慮すべき点）」ポイント

- ・市民による管理組合を立ち上げ、ボランティアの協力も募る
- ・運営委員会を立ち上げる
- ・立ち上げた「**運営委員会**」には、常駐の市職員も関わる
- ・情報の連携を協働で行う



第1班:表現豊かな発表の佐藤さん



第2班:丁寧な発表の渡辺さん



第3班:詳しい発表の大竹さん

3 グループ発表後、アドバイザーの先生方から講評をいただきました。

【宇都宮文星短期大学 山口哲子教授の講評】

このワークショップに参加して、新庁舎にこの施設を市民としてどう利用していくのか、その利用をどのように考えてハードに反映させていくのかなと思って見てきました。

市が、行政が、これまで以上に市民との関係をフラットに、対等に考えているのだと感じています。

この施設の市民による管理という視点がとても大きいですね。各種委員会、審議会ではなく、特別な委員でない一般の市民がもっと市政に参加していく、そんな市民と行政の関係性をここで作っていくことができれば良いのではないのでしょうか。

市民がものすごく成熟しているということを感じました。



【福島大学 山川充夫副学長の講評】

今日は設計を担当される方々も出席されていらっしゃるのでも空間論を展開してみたいと思います。

今まさに、「協働」によって物をつくりあげる作業に皆さんが関わっているのです。与えられた空間で活動するのではなく、公共空間をいっしょにどうやって作るかということが大切になってきます。

今日の議論により、来年度への橋渡しができるのではないのでしょうか。

この施設を考えた場合、キーワードとして「出会い」という言葉を使ってみてみたいと思います。

公共性ということ考えた場合、協働ということから見た「公」と「私」、個々人の「私」と「私」の「出会い」の場所としてとらえることができるのではないのでしょうか。この場所が接点としての窓口の機能を担っていくと私は思います。

(この施設を出会いの場所として考えた場合)「空間」とは、様々な機能が集合したところであるから、どのような目的を持ったものであるかという視点でその機能は編成されていかなければならないのです。しかし、目的をしぼってしまうと、流動性がなくなっていくし、可能性が排除されたり、序列がついてしまったりすることになっていきます。(これは必然なのである。)

「出会い」というコミュニケーションは双方向性で、このコミュニケーションをつなぐ媒体が情報であり、情報を発信するためには「情報」をたくさん集めなくてはなりません。

ここで知っておくべきことは、市は情報をたくさん持っているのではなく、集める力を持っているということであり、これが「公」の役割ではないだろうかと考えます。

「情報」は、生の情報ではなく、十分に議論され整理された情報であれば利用しやすく、アクセシビリティの高い(接近しやすい)ものとなってきます。この「情報」はITやインターネットによる情報ではなく、そこに行けば触れることができるといった、文字化された情報ではなかなか読み解けないものを、人と人とのコミュニケーションで解決していくことが重要になります。

議論の中で、情報の透明性が重要であるとの認識も随所で見られました。この透明性は、結果として説明されることと、情報の加工のプロセスが皆にわかるというものでは、大きな違いがあります。意思決定の前の段階で市民がどうか関わっていけるのかということが重要になってくるのです。平成15年度に行われた「市民協働のまちづくり」のワークショップでは、「事前の事前」という表現が用いられ、早い時期からの市民協働の重要性が大きな議論となりました。

こうしたソフトの議論をしてきた私たちが、今後、「空間」を物性化していく作業で、具体的な目的性がさらに限定されると、流動性、多様性が失われてしまいがちですが、ハードに落として行く際にこの流動性をどのように担保していくかが、新しいものを作っていく上での大切なところではないのでしょうか。

そしてこうしたソフトをハードに落としていく、新しいものを作っていく作業が、最終的には管理運営を考えるとところにつながってくるのではないだろうかと思えます。この管理運営を考える上で、議論の中で出てきた、安全・安心や使い勝手、いやしといったコンセプトが空間の活用における効率性につながり、この施設のマネジメント、ガバナンスという言葉からすれば、このワークショップでの意見を汲み上げながら、より使い勝手の良いものを作っていくことが施設の効率的な利用につながっていくのではないのでしょうか。

